

しながわ 平和のための戦争資料展

'94 第11回 8/11(金)~15(月)

くり返すまい 戦争への道

学童疎開50周年



展示内容ごあんない

学童疎開50周年

今年は学童の集団疎開が開始されて50年目に当たります。

昭和19年 本土空襲が激しくなる中で都会の子ども達(3年から6年)は、親から離されて1年余りもの集団生活をさせられました。当時の子ども達の生活を12の場面に立体化しました。展示物を通して学童集団疎開の持つ意味を考え、二度とこのようなことがないように願いたいものです。



(出 発)



(面 会)

ビキニでの核実験から40年

アメリカがマーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験で、第五福竜丸の乗組員、地元ロンゲラップ島とウトリック島の人々、当時ロンゲラップ島で気象観測をしていたアメリカ人が死の灰を浴びせられてから40年になります。彼らは、今もなお身体と心をむしばまれています。



▲視津港に帰港した第五福竜丸 (1954年3月)

集団学童疎開当時の国内の動き

—本土決戦体制—

1944年7月最高戦争指導者会議によって本土防衛体制が決定され、8月には女子挺身勤労動員、学徒動員令が公布され、10月には沿岸防衛施設築城が下令されました。さらに1945年5月1日には本土決戦が上奏され本土決戦体制が確立しました。このころ長野県松代に大本営を移すために地下壕が掘られ、登戸研究所は大本営を守るために長野県飯田に移転しました。

登戸研究所

主に、中国の偽札づくり、枯れ葉剤や病原菌の開発研究スパイが使う要人殺害用毒物の製造のほか、風船爆弾の製造も行った。

しながわろう学校の集団疎開

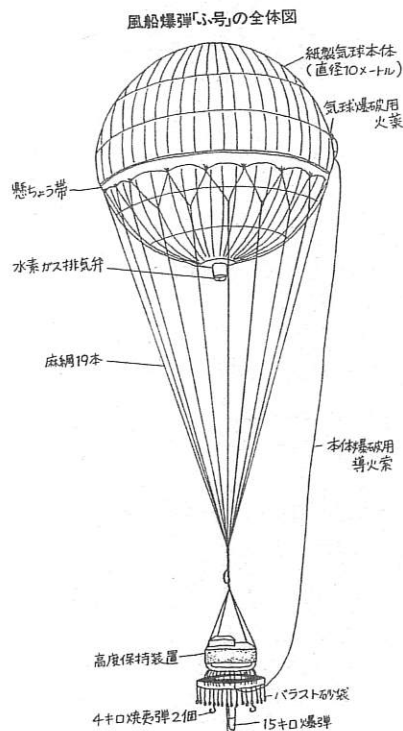
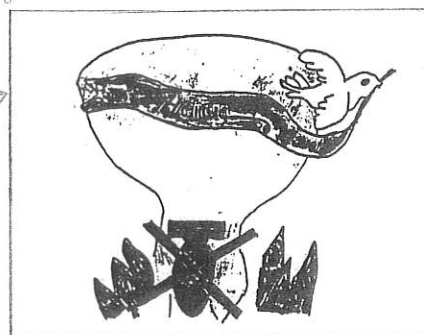
1834年(昭和9年)に開校した品川ろう学校(南品川6丁目)の集団疎開は、1944年(昭和19)5月15日で、同年8月より実施された国民学校のそれより早い。疎開先は神奈川県相模湖畔に近いお寺で、対象も幼稚部から小学校高学年までだった。

品川高校生平和ゼミナール

高校生や、大学生を対象に、平和についての意識調査を行ないました。そのまとめを展示します。



← アメリカの子どもの平和ポスター →



風船爆弾

主催 / しながわ

(3776) 1351 小河原

「平和のための戦争資料展」実行委員会